

子どもの行動を正そうとする保護者を カウンセリングにつなげるための関わり

山本卓也 (岡山)

要旨

キーワード :

1. はじめに

私は、中学校の教諭なので、現場では常に「教育相談レベル」(生徒の成績など学習面の相談・欠席や遅刻、当番活動、係活動、授業態度など生活面の現状の報告と保護者への協力依頼など)で相談できる内容と「カウンセラーや臨床心理士などの専門家」に持っていかなければならない内容を区別するように考えている。また、初めは教育相談レベルだと思って聞いている話でも場合によっては専門家につなげる必要が生じる場合もあるということを念頭に置きながら話を聞くようにしている。しかし、教育相談レベルから、専門家につなげる必要が生じても目標の一致が見られず解決に至らないケースも多い。特に、保護者から生徒に関して相談があったときに目標の一致が見られないことが多かった。

今回の事例は、不適切な行動をする生徒と、それを正そうとする親との間で、保護者との信頼関係を築きつつ、生徒に対して、担任が自分の味方であるための工夫をした結果、保護者をスクールカウンセラーにつなげられ、さらに生徒の援助もできたので報告する。

2. 背景

筆者は 3 年間担任をしている。両親は A 君が小学校中学年時に離婚。現在の学区に転校した。小学校中学年のころ、「情緒障害」の診断を受け一年ほど通級学級へ在籍していたが父親の判断で通級学級をやめる。今まで、三者懇談のある週や定期考査の時期にはよく「腹痛」を起こし学校を休んだ。また集団行動が極端に苦手で学校行事や学年行事の時期や行事当日には「激しい腹痛」を起こして見学や欠席をすることが多かった。何度か医療機関へ受診もしたが「特に身体的異常(内臓疾患など)は見当たらない」という診断を受けている。

*通級学級：特殊学級に在籍しながら、生徒の実態により通常学級で授業を受けるというシステム。

3. 家族布置

実父・弟(小4)・弟(小2)・弟(幼稚園)・祖父・祖母・本人(第1子)の7人で生活をしている。

4. 学業・交友

学業成績は低域である。仲の良い友人はいる。

5. 経過

中学2年の12月11日の放課後、父親より「家のお金(居間に置いてあった貯金箱)が無くなっている、Aが盗った可能性が高い、自分が聞いても「知らない」というだけ。先生が聞いてみてくれないだろうか」という内容の電話が入る。当時A君は友人とのゲームソフトの貸し借りや金銭面でのトラブルがいくらかあった。父親もそのことは私の報告で知っていた。父親には「いきなりその話題には入れないと思いますが、明日の放課後A君と話をしてみます」と伝えて電話を切った。A君とはよく放課後に話をしている(A君からの要請がほとんどである)。

12月12日

1 <放課後；A君との会話>

【Subjective problem】(主観的情報)

教師(以下“T”) T:「A君、今日これから少し話せますか？」

A君(以下“A”) A:「いや、ちょっと今日はBと遊ぶ約束をしているので。」

T:「そうですか。…(中略)…では明日時間があったら話しましょう。明日また聞きますのでそのとき時間が無かったらまた教えてくださいませんか？」

A:「はい。分かりました。それじゃあ。」

T:「それではさようなら。」

【Objective problem】(客観的情報)

服装は制服。私の申し出を断るときにはうつむき、目を合わさなかったが、私が了承をすると顔を上げて私の方を見る。

【Assessment】(評価、分析)

今までの経過でも、こちらの申し出を断るときは、私との距離をとって様子を見ようとしているときが多かったので、今回も同様と考えられた。そこで、無理に残して話をしてもあまり進展しないと考えこれ以上の会話は避けた。

【Planning】(計画立案)

A君には明日もう一度呼びかけてみる。

2 <夜；父親との電話での会話>

【Subjective problem】

T:「こんばんは。昨日お父さんとお話した件ですが。」

父親（以下“F”）F:「Aは白状しましたか？」

T:「それが、今日は…（中略）…話せませんでした。明日以降、話をしてみようと思っているのですが？」

F:「そうですか。きっとあいつのことなので、また嘘をつくと思うんですよ。でも状況から考えたら盗ったのはあいつしか考えられないんですよ。無くなったと思う時間を考えると弟たちは私の部屋にいたし、祖父や祖母は…（A君以外の全員のアリバイを話す）」

T:「そうですか、ところで全員が留守中に不法侵入・窃盗があったということは考えられませんか？可能性の話ですが。」

F:「いや、それは考えられません。」

T:「そうですか。実はここ2・3日この学区近辺での不審者情報が続いていましたので、もしやと思ひまして。」

F:「最近ここも物騒ですからね。まあ、先生、また明日にでも聞いてみてやって下さい。」

T:「わかりました。明日また話をしてみます。」

【Objective problem】

電話のため表情や服装等については観察できなかった。声の調子はやや早口であった。

【Assessment】

A君が盗ったと考えているようで、そのことを何とか私にも認めさせようとしているように思えた。父親がA君とのコミュニケーションを上手く行える方法を学んでもらう必要を感じた。不審者情報については実際に警察から注意を促されていたので確認をとった。

【Planning】

父親の主張に安易に乗らないようにしつつ、父親と目標の一致をとる。

12月13日

【Subjective problem】

3 <昼休みに放課後に話せる時間を取れる合意を得た>

T:「時間とってもらってありがとう。」

A:「はい。あの、何かあったんですか？」

T:「実は先日、A君のお父さんとお話する機会があって、お家の貯金箱が無くなったって聞いたんですが、大変じゃなかったですか？」

A:「はい。家中捜したんですけど、見つからなくて。困っているんです。」

T:「家中？ 大変でしたね。今も捜しているのですか？」

A:「はい。でもなかなか見つからなくて。」

T:「どんな貯金箱なんですか？」

A:「四角い箱のような…（貯金箱の形や色の特徴を詳しく話す）です。」

T:「そうですか。それだとどこかに入り込んだりするとなかなか見つかりそうにないですね。」

A:「はい。一生懸命捜しているんですが。」

T:「見つかるといいですね。何か先生にできることがあったら教えて下さいね。今回の場合はお手伝いといってもなかなかできないと思いますが。」

A:「分かりました。あの、先生、今日はこの後ちょっと友だちと約束が…」

T:「分かりました。それでは、また明日。」

A:「さようなら。」

【Objective problem】

服装は制服。全体的にうつむいた状態で目を合わさず話していた。

【Assessment】

私の中では、父親がクライアントであるが、私が A 君の父親に何をしゃべるのかが気になっている A 君にとって私は、父親側の取調官になってしまっていると考えた。そのため友人との約束を理由に彼に抵抗にあったのではと考えた。

私としては A 君を容疑者として話をするつもりはなく、そのため率直に聞いてみたのだが、結果として彼に「疑っているよ」というメッセージとして伝わってしまったと考える。

【Planning】

A 君との会話を慎重に進める。そのために貯金箱については、あくまでも父親からの依頼であると伝える。

4 <夜；電話での父親との会話>

【Subjective problem】

T:「こんばんは。放課後 A 君と話をしました。一生懸命捜しているけど見つからないと言っていました。」

F:「そんなことないですよ。全然捜してなんかないくて『僕は知らない』の一点張りなんです。それでさっきもう一度聞いてみたんです『状況から考えたらどうしてもお前しか考えられない、正直に話してくれ。正直に言ったら怒ったり叩いたりしないから』と。」

T:「A 君はどんな様子でしたか？」

F:「『僕は本当に知らない。信じてお父さん。』とっていました。」

T:「お父さんは何と？」

F:「『信じてない事はない。ただそうなったら泥棒が入ったことになるから、警察の鑑識を呼ばないといけないね。』と言いました。」

T:「A 君は何と？」

F:「『それでもいい。僕は無実だから。でもそうすると近所の人とかに迷惑じゃ・・・』と A が言ったので、『それは仕方ないよ。家の中に犯人がいなくなると、警察に来てもらわないと。だから盗ったのなら今のうちに言ってくれ。』と。」

T:「A 君はどんな様子でしたか？」

F:「『盗ってないけど、困ったな。警察が来たらみんなに知られて恥ずかしいな。』とっていました。」

T:「確かに警察沙汰になると A 君も驚くでしょうね。」

F:「本当に警察に言うつもりはないんですけどね。本当のことを言ってくればそれでいいんですけど。」

T:「本当のことですか。A 君が盗ったということですか？」

F:「ええ。でもあいつは僕のことが怖いから本当のことは言わないんですよ。」

T:「なかなか言えないんですね？」

F:「そうなんです。そんなにいつも怒ったりしている訳ではないのにやたらと恐れているんで

す。先生には話ができるかも知れませんが、また聞いてみてください。」

T:「分かりました。また機会をみて話をしてみます。それでは今日はこの辺でよろしいでしょうか？」

F:「はい。またよろしく申し上げます。」

【Objective problem】

電話だったので表情や服装については分らない。声の調子はやや早口であった。

【Assessment】

会話から、A君が父親に正直に話してくれないことについて父親が問題意識を持っていることがわかった。さらに、A君の性癖の悪さなどではなく、その理由として自分をA君が怖がっているからという推量をしていることがわかった。私に父親が多く語ってもらい、父親のことが理解でき、その上私との関係ができれば、ともにA君を思う同志という協力関係を築けると考えた。そのためには開いた質問を用いてなるべく父親に関わろうと考えた。

【Planning】

開いた質問を用い関わることで、関係樹立と目標の一致をする。

12月14日

5 <日中は私が出張であったためにA君とは話せなかったが、夜、突然A君が学校にやって来た>

【Subjective problem】

T:「こんばんは。話がしたいということなのですが。」

A:「はい。あの、僕の家貯金箱が無くなった話なんですけど。」

T:「はい。A君の家の貯金箱の件ですね？」

A: (貯金箱を出しながら)「はい。実は今日一日考えていまして、ひょっとしたらあそこかな、と思うところがありまして、放課後急いで家に帰って捜してみたら、引き出しの奥のほうから出てきまして、すぐ先生に知らせようと思ったんですが先生は出張でしたので」

T:「ごめんなさいね。…(中略)…貯金箱が見つかって良かったですね。」

A:「はい。それで、夜になって行ってみようと思ったんです。」

T:「そうですか。…(中略)…電話くれたらお家まで行っても良かったんですよ。」

A:「いえ。そうしたらお父さんにバレてしまいますから。」

T:「何がバレるの？」

A:「先生にこのことを話しに行ったのが。」

T:「というと、お父さんにはまだ『見つかったよ』と伝えていないのですか？」

A:「はい。言うとも分叱られますから。」

T:「叱られる？」

A:「やっぱりお前が盗ったんだらうって。ウソついたんだらうって。」

T:「A君が盗ったの？」

A:「いいえ。盗ってません。」

T:「それならば、気にせず『ここにありました』と教えてあげれば良いと思うんだけど、その方がお家の人も安心するんじゃないですか？」

A：「はい。でも僕が言うと叱られる…。」

T：「困りましたね。どうしたらいいのでしょうか？ 心配しているだろうから早く伝えた方がいいと思うんですが。」

A：「……………」

T：「何か先生にできることはありますか？」

A：「…先生が『見つかった』って言うっていうのはどうですか？」

T：「えーっ！？ 先生が言うんですか！？ でもそれはバレるのでは？ 先生は A 君のお家にはお邪魔していないですから。他に何か無いですか？」

A：「じゃあ、先生が僕から聞いたって言うのはどうですか？」

T：「それなら言えないことはないですけど、でもそれだと結局 A 君がお父さんに叱られることになりませんか？」

A：「いや、先生から言われたらお父さんも僕を怒らないと思います。」

T：「でもそれだと A 君の代わりに先生が怒られる事になるのでは…。」

A：「いえ。大丈夫です。」

T：「A 君が直接言った方が良いような気がするのですが…。」

A：「いえ。先生、お願いします。」

T：「分かりました。では先生の方から言うことにします。それで、内容の方はさっき A 君が言ったように心当たりの場所を捜したら見つかったと伝えればいいですか？」

A：「はい。もしかしてここかなって思ったんです。それで捜したらあったんです。」

T：「了解。ではこれから伝えようと思いますが、電話で話しますか？ それともこれからお家に行って話しますか？」

A：「電話でいいですか？」

T：「分かりました。それではかけてみますね。」

【Objective problem】

服装は制服。やや早口ではあるが、はっきりとした口調で表情も笑顔が見えた。

【Assessment】

今回の A 君との会話の内容は私の予想外だった。しかし、A 君が貯金箱を持ってきたことは、A 君が私を信頼しており、こちらの質問に素直に答えてくれ、かつ私に父親との関係調整を望んでいると考えられた。さらに、A 君は父親と仲良く暮らしたいと願っていると考えられる。今回は貯金箱の行方にはあまり触れずに父親とのコミュニケーションの取り方について話し合う方向に持って行きたかったのだが、A 君の方からその話が出てきたため少し私からの問いかけや話が特に前半混乱している。後半で A 君からの要請により代理で父親に報告をすることになったが、前回の Planning からは外れた結果となった。

【Planning】

何とか親子間のコミュニケーションの話にもって行くための足がかりを探すために、お互い（父親と A 君それぞれの）良い意図を伝える。

6 <父親への電話>

【Subjective problem】

T:「すみません。遅くなっています。」

F:「Aは何の話だったんですか？」

T:「A君が家の引き出しを捜していたら例の貯金箱が見つかったそうです。それでこの寒い中、私に話しに来てくれました。」

F:「やっぱり！さっき学校から帰った時から様子が変わったんですよ。そわそわして、『先生は出張からいつ帰るのか。』とそればかりなんです。何かあると思ったらやっぱりそうでしたか。」

T:「きっとA君は早く私に知らせてあげようと思ってくれたのではないのでしょうか。」

F:「そうですか。でも状況からするとあいつしか考えられないんですよ。先生はどう思われますか？」

T:「私ですか？」

F:「ええ、やはりAだと思いますよね？」

T:「いえ、現在の状況はやっと貯金箱が見つかったというだけで、私もA君とまだ話を続けたいと思っているところなんです。ただ、A君は『盗っていない』と言っていますので、私としてはA君の言葉を信じたいと思っていますのですが。」

F:「そうですか。じゃあ、ゆっくり話を聞いてやってください。先生にならあいつも気軽に話せると思うので。私には話してくれないと思うので。」

T:「分かりました。もう少し話をしてみます。帰りは私がお送りしますのでご安心下さい。」

F:「よろしくお願いします。」

【Objective problem】

前半はしっかり聞きとれる口調で話す。後半はやや声の大きさが下がる。

【Assessment】

A君を犯人にするための会話には乗らないように注意した。そろそろ父親もなかなか話に乗ってこない私に対して苛立ちは感じるのではと思っていたが、その様子は伺えなかった。「ゆっくり話を聞いてやって欲しい」という言葉から、父親もA君の話は聞いてやりたいという気持ちはあるが、上手く聞いてやれないという思いがあるように感じる。

【Planning】

父親とA君との関係を調整するために、私はお互いの言い分の通訳的動きをする。

7 < A君との会話 >

【Subjective problem】

T:「お父さんと話しましたよ。」

A:「怒っていましたか？」

T:「いいえ。怒っているようには感じませんでした。」

A:「本当ですか？」

T:「ええ。ただ、困っているように感じましたよ。」

A:「困っているんですか？」

T:「はい。そう感じました。」

A:「何にですか？」

T:「A君とお話をしたいのだけど、うまくお話ができないことに困っているようでした。」
A:「でも、話をすると怒られる。」
T:「例えばどんな風に怒るのですか?」
A:「叩きます。」
T:「怒るとすぐ叩くんですか?」
A:「いえ、初めは言葉で言ってくるんですけど、僕が口答えをするとすぐ叩いてきます。」
T:「その時A君はどうしますか?」
A:「すごく痛いのでやめてって言いますが、そうしたら「そんなに強く叩いてないのにどこが痛いんだ」って言います。」
T:「そう言われてA君は?」
A:「もう叩かれたくないから、自分の部屋に戻ります。」
T:「その時お父さんは?」
A:「僕が部屋に入ったらもうそこで終わって、弟たちと話したり、家事をしたりします。」
T:「部屋に戻った後、A君はどんな気持ちになりますか?」
A:「とても辛いです。」
T:「そうですか。辛くなるんですね。では何かあった時にA君がお父さんに叩かれたりせずにゆっくり話すことは少ないんですか?」
A:「はい。」
T:「A君はお父さんともっとお話したいと思いませんか?」
A:「はい。」
T:「そうですよね。」
A:「でもすぐ怒って叩かれるから。」
T:「どうすれば怒らないでA君と話をしてくれるようになると思いませんか?」
A:「分かりません。」
T:「確かに難しいですよ。でもA君もお父さんとできれば怒ったりしないでお話をしたいんですよ?」
A:「はい。」
T:「ではこれは提案なんですけど、お父さんもA君とうまくお話したいと思っているみたいですし、A君が今先生に話してくれたことやお父さんとうなりたいと思っていることを先生からお父さんに伝えてみていいですか?」
A:「はい。」

【Objective problem】

うつむいて、声も小さかった。私と視線が合うことはなかった。

【Assessment】

少し強引だったかも知れないが『お父さんと上手く話がしたい』という言葉が出た。

【Planning】

父親がA君とコミュニケーションを上手にとるために必要なことは何かを聞いていく。さらにA君の良い意図も伝えていく。

12月15日

8 < 15 日午後 ; 父親来校 >

【Subjective problem】

T: 「A 君はお父さんとお話をしたいようです。ただ、お話の途中でお父さんに怒られることが辛いようです。」

F: 「はあ。」

T: 「怒ったときはどのような接し方をされていますか？」

F: 「接し方といますと？」

T: 「例えば頭を小突いたりだとかはされていませんか？」

F: 「そりゃあ、話していて嘘を言ったりおかしなことを言ったりしたら「嘘を言うな」と軽く頭をコツンとやったりはします。」

T: 「どうもそれが A 君にはかなり辛いようなんです。」

F: 「でもね、先生、小突くといっても本当に軽くなるんですよ。それをあいつが大げさに言っているだけなんですよ。」

T: 「そうですか。確かにお父さんにとっては軽くかも知れませんね。ただ、A 君にとってはとてつもないパワーで『殴られた』と感じるのかも知れませんよ。お父さんのその太い腕で小突かれるんですから。」

F: 「いや～、でも本当に軽くなるんですけどね。」

T: 「とても痛いらしいですよ。」

F: 「そうですか。そんなに嫌がってるんですね。」

T: 「痛くて辛いようです。ですが A 君はもっとお父さんと話したいとも言っていましたよ。」

F: 「でも、あいつは私が怖いからか話をしようとしてもすぐに嘘をつくんですよ。『本当のことを言えば叩いたりしないから』って言うんですけどね。」

T: 「その辺で A 君に恐怖を与えずにうまく話ができると、お父さんも A 君から嘘を言われず怒らずに A 君と話ができそうだと思うのですが。いかがですか？」

F: 「そう思います。でもなかなかどうすればいいのかが分からなくて。」

T: 「そうですね。これまでのやり方を急に変えようと思ってもなかなかその方法が分かりませんよね。」

F: 「そうなんですよ。何かやり方があればいいんですが。」

T: 「一つ提案なんですけど、そういうのであれば、今学校にはスクールカウンセラーさんが週に 1 回来てくださいますので、一度相談してみますか？」

F: 「カウンセリングですか？」

T: 「ええ。『A 君とのコミュニケーションの取り方について』等の内容で相談すればいい方法を教えて頂けるかも知れませんので。」

F: 「そうですか。じゃあ一度試しに話してみます。」

T: 「分かりました。カウンセラーさんに相談してみるということで、予約については 1 回目は私の方が調整しようと思うのですが、よろしいですか？」

F: 「はい。よろしくお願いします。」

【Objective problem】

服装は赤系統のトレーナーに下は紺色のジーンズ、髪は短髪で金髪で会話中は笑いながら話すことが多かった。

【Assessment】

父親の意図をうまく汲めたためカウンセリングに持って行くことができたと考えられる。

【Planning】

父親のカウンセリングの経過と A 君との関係が今後どのようなようになるか観察する。

6. その後の経過

この後父親のスケジュールを確認し、カウンセリングの予約を取り、一週間ほどの後に父親は 1 回目のカウンセリングを行った。このカウンセリングが父親には良かったようで、その後 10 回(約 3 ヶ月)ほどカウンセリングを続け、自分の関わり方について見直しを行っていた。その結果以前のような暴力的な言動や行動が減少したとスクールカウンセラー及び A 君本人からも報告があった。以来 A 君にある時期決まって起こっていた「腹痛」もほとんどなくなり、3 年に進級してから欠席はほとんど(完全にではないが)しなくなっている。

7. 考察

(1) 父親への対応について

今回の事例について考察する。まず父親との会話については、私自身の頭の中に「父親を何とかカウンセリングにつなげたい」という思いがあった。その結果、会話が A 君とのコミュニケーション不足を父親に気付いてもらうという方向に動いていったと考えられる。具体的には、非常に専制的に振る舞う父親であったが、#6 での父親の「そうですか。じゃあ、ゆっくり話を聞いてやってください。先生にならあいつも気軽に話せると思うので。私には話してくれないと思うので。」という発言を聞き、私は父親が A 君とコミュニケーションをとりたがっていると考えた。そして #8 での父親との会話で「その辺で A 君に恐怖を与えずにうまく話ができると、お父さんも A 君から嘘を言われず怒らずに A 君と話ができそうだと思うのですが。いかがですか?」という言葉投げかけ、父親から「そう思います。でもなかなかどうすればいいのかが分からなくて。」という言葉が返ってきたことで、多分に私の意図が含まれる会話となったが、私と父親との間に目標の一致がとれ、カウンセリングへとつなげることができたものと考えられる。

(2) A 君との関わりについて

A 君との会話については、まず普段の A 君と私の人間関係は良好であったので A 君にとって私が敵にならないように、刑事や探偵や裁判官、父親の密偵にならないように注意しながら会話をした。例えば、12 月 14 日の A 君との会話で「貯金箱が見つかった」と言う A 君に対して「なぜ見つけられたのか?」というような、A 君を問い詰めるような言葉を発しないように注意をして私が敵にならないようにした。その結果お金のことにはこちらからは積極的に触れないように配慮しながら、「父親とのコミュニケーションで困っている」ということを聞き出すことができ、その後の父親との会話へとつなげることができたと考えられる。

(3) A 君の腹痛や欠席について

「その後の経過」で書いた A 君の腹痛や欠席がほとんどなくなってきたことについての考察を

行う。入学当初 A 君は自然教室などの学校行事や定期テストなどの前に必ず腹痛を訴えていた。そこでクラスでの私の A 君への対応として、A 君に「お腹が痛いときには、きちんと先生に伝えて欲しい」というメッセージを伝え、同時にクラスの中での友人作りのお手伝いをした（これには後に A 君の友人となった生徒の力が大きな助けとなった）。その結果、行事等に取り組むことが「私（学校側）と A 君との課題」から「A 君と友人との課題」へと変わったため、A 君にとっては私に腹痛を訴える必要が無くなったものと考ええる。（実際、仲の良い友人ができてから何度か A 君が私に「お腹が…」と訴えそうになった時もあったのだが、友人が「先生任せて下さい。」と言ってきて、A 君をうまく輪の中に入れて活動をしていた。）

また、スクールカウンセラーにカウンセリングをしてもらうようになってから父親の暴力的な言動や行動が減少したということも腹痛や欠席の減少に大きく関係していると考えられる。すなわち、「学校での友人作り等を含めた取り組み」と、「スクールカウンセラーと相談するようになってからの父親の A 君への関わりの変化」が A 君の腹痛や欠席の極端な減少につながったものと考えられる。

8. 結語

私がアドラー心理学に初めて出会ったのは7年前、中島先生の大学での講義を受講したことが最初でした。その後、基礎講座や書籍、中島先生からの指導を受けるなど、少しずつではありますが自分のペースで学んできました。今回、一教員の動きをシェアできると思ったことと、私自身が多くを学べることができると考えたので、投稿しようと思いました。

現時点ではまだまだ勉強不足であり稽古不足でもあり、スムーズで適切な相談ができていないと感じています。これからもさらにアドラー心理学についての理解を深め、生徒の話を生徒の力を上手に引き出してあげられるよう精進してゆきたいと考えています。また、私自身もカウンセラー資格やパッセージ受講等の専門的な知識をさらに深め、より多くの相談に適切に対応してゆけるよう技量を磨いてゆかなければなりません。

最後になりましたが、本稿執筆にあたりまして中島先生には国際学会発表の準備等お忙しい中、ほぼ毎週のように研究室に押しかける私の相談に乗ってもらい、非常に有意義なご助言を頂きました。ここに深く感謝いたします。

9. 参考文献

- 1) 野田俊作：助言の方法．アドレリアン，1(2)，1985，pp.69—77
- 2) 岸見一郎（訳）：学校における個人心理学(1)．アドレリアン，5(2)，1992，pp.115—120
- 3) 岸見一郎（訳）：学校における個人心理学(2)．アドレリアン，5(2)，1992，pp.43—48
- 4) 岸見一郎（訳）：学校における個人心理学(3)．アドレリアン，5(2)，1993，pp.115—119
- 5) 岸見一郎（訳）：学校における個人心理学(4)．アドレリアン，7(1)，1993，pp.37—42
- 6) 岸見一郎（訳）：学校における個人心理学(5)．アドレリアン，7(2)，1994，pp.91—96
- 7) 岸見一郎（訳）：学校における個人心理学(6)．アドレリアン，8(1)，1994，pp.27—32
- 8) 萩昌子：クラスの中に治療的人間関係を．アドレリアン，3(1)，1989，pp.17—27
- 9) 萩昌子：クラスの中に治療的人間関係を—その2—．アドレリアン，4(1)，1989，pp.35—47
- 10) 野田俊作・萩昌子(1989)：クラスはよみがえる，創元社

更新履歴

2013年5月1日 アドレリアン掲載号より転載